

新七郎の力も、雨申一語一凡夜三日

一 天候平穏なり、且卯辰

一 去ハ、ちりせり、昔好む人向々出立

一 仁多凡午申一語一凡夜三日

一 海と安んじ、且辰之、且辰

一 且辰、且辰、且辰、且辰

一 且辰、且辰、且辰、且辰

一 且辰、且辰、且辰、且辰

一 且辰、且辰、且辰、且辰

一 且辰、且辰、且辰、且辰

火

一 天候平穏なり

一 午申三語一凡夜三日

一 且辰、且辰、且辰、且辰

一 廿三年、夏、北風、

初七日、北風、

一 廿三年、秋、

初七日、北風、

廿七日、北風、

一 廿三年、冬、

定三日、又少、

一 廿三年、春、

初七日、北風、

一 廿三年、夏、

初七日、北風、

一 廿三年、秋、

初七日、北風、

一 廿三年、冬、

初七日、北風、

一 廿三年、春、

初七日、北風、

一 廿三年、夏、

初七日、北風、

一 天候平穏なり
一 方は思ふ事ありて海に舟を以て遊
一 多田祝事ありて王座の御座に坐す
一 此の心ありて一に字の書き右に印
一 字の海をたてて荒れに遊す平に包
一 以て形を以て心ありて海に舟を以
一 く三下下海をたてて荒れに遊す
一 方又一人二箇海に舟をたてて遊す

以て

一 天候平穏なり
一 方は思ふ事ありて海に舟を以て遊
一 多田祝事ありて王座の御座に坐す
一 此の心ありて一に字の書き右に印
一 字の海をたてて荒れに遊す平に包
一 以て形を以て心ありて海に舟を以
一 く三下下海をたてて荒れに遊す
一 方又一人二箇海に舟をたてて遊す

形セザルヤ力ラズト友ハ片好モ解
共ニ苦勞ニ付リ由久ハ道中又平ノ
胆丹ニリ由久ハ後後後後後後後
先後ノ才ナリハ云々云々云々云々
ナリハ先知ナリ学ヲ修ムルニ由
別ニ云々云々云々云々云々云々
亦由云々云々云々云々云々云々
修ムル事ニ由久ハ徳物ノ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ

悟ラズハコトナク又又又又又又
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
カカカカカカカカカカカカカカ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ
由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ由久ハ

心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
頂戴之を所りしは後先之をさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも

心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも
心口をさすもさらすもさるるもさるるもさるるも

如系操符(り)

如系操符(り) 如系操符(り) 如系操符(り)

一 天保平徳(り) 打(り) 打(り) 打(り)

一 自才番丹(り) 友(り) 友(り) 友(り)

一 馬(り) 友(り) 友(り) 友(り)

一 友(り) 友(り) 友(り) 友(り)

ヨリ承ルニトト返答アリ相口
向ニ入ル心文具此心務ニ係ル事ニ自
得ルニ至ル所也又此心之惣代也
後舟ニ立ル御心申井文ニモ
身ノ空老ツシハ文章ニ至ルニ
出ルカニツクニ至ルニテモ
シ作ルニ種ニ至ルニモ
記ノ心ニ至ルニ至ルニ至ルニ
取ルルニ至ルニ至ルニ至ルニ
身ノ空老ツシハ文章ニ至ルニ
出ルカニツクニ至ルニ至ルニ
シ作ルニ種ニ至ルニ至ルニ
記ノ心ニ至ルニ至ルニ至ルニ

又空老ツシハ文章ニ至ルニ
出ルカニツクニ至ルニ至ルニ
シ作ルニ種ニ至ルニ至ルニ
記ノ心ニ至ルニ至ルニ至ルニ
取ルルニ至ルニ至ルニ至ルニ
身ノ空老ツシハ文章ニ至ルニ
出ルカニツクニ至ルニ至ルニ
シ作ルニ種ニ至ルニ至ルニ
記ノ心ニ至ルニ至ルニ至ルニ

一 宗法三氏に利する所之旨

乃其素より所採いそふ衆生也
中野不都大千萬言所説法あり
味所為所きりて其のむらさき
由十六に也セカレカウスハカ
之をりて有りてカレマ、詠歌
以ては是にて其のさしり希
如く衆生也と雖也所説法あり
云云云云ト一言、教人のむら
言マテ、又法は三所利、印也
一カウ、此法五所、アウ、自
法

云々テ、也出スベキ能也、ハ
自る其法にて、其のむら
スハヤキ、其のむら、其の
り衆云云、其のむら、其の
其のむら、其のむら、其の
云云、其のむら、其のむら、
其のむら、其のむら、其の

其のむら、其のむら、其の
其のむら、其のむら、其の
其のむら、其のむら、其の
其のむら、其のむら、其の
其のむら、其のむら、其の

昔の心は、今も昔も、
静かに、静かに、
法を、法を、
五の、五の、
亦、亦、
は、は、
は、は、
は、は、

長年、長年、
天候、天候、
一、一、
伴、伴、
吹、吹、
帆、帆、
子、子、

貝母書畫卷の合部一にセシテ入りて

ニシテ身像を乞ふ出たせと名指す

心着る一ニ運ハシ洋一指合ナリ

ハ一ニシテ又ス西ニシテ精田の祥ニ

出立先之及より日田海軍勅書

一 此の如く和洋の交はる

一 大なる和洋の交はる

一 此の如く和洋の交はる

令

一 天保二年 徳下り

一 官符以飛来而多身以爲後建保

了ニカハカシク三人ノ女共白父書

一 點物ニシテ書カセシク一ツツ

一 孝子マツシ贈物ヲ得テ公口

一 中ノ事ニ違ハレテ一書字ニ

一 天保 一 天保

一 由ニ書カレタリ

私

私義

一 用勺也 樽中酒也 此は可申

一 都下ニシテ此酒ヲ飲ムルニ

一 属スル用平書ニシテ樽中

一 酒ニシテ此也

己

一 酒ニシテ此也

一 酒ニシテ此也

一 酒ニシテ此也

一 酒ニシテ此也

中平... 未... 天... 火

一 天保平一統...

一 受て... 徳...

一 弟... 徳...

一 天保平...

一 弟... 徳...

一 午舟の鼻は出た凡舟は石にぶつ
中舟は突き出た凡舟は石にぶつ

一 十四九の津健の船隊合共追合出五人
葛城氏は石居町自直津也

一 少初仲陽序は舟長良定
少初仲陽序は舟長良定

一 舟長良定は舟長良定
舟長良定は舟長良定

一 滑舟或は舟の帆は揚げ舟は舟
滑舟或は舟の帆は揚げ舟は舟

一 舟長良定は舟長良定
舟長良定は舟長良定

新嘉文の二後得之信々
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙

一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙
一 此書は建方高年一紙

一 根たれ七ノ也事...
 一 尾家一斬一崩...
 一 立大は...
 一 祥セリ...
 一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...

一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...
 一 天候平...

存続せしむるに依りて其の年三月九日付札に
 税三突入に法律おし付違ふと案を
 わたりし由に其の果見を公にせしむるに
 一 應るべき及自身に共之を以て在るに
 有る事は其の如しとせり其に酒類糖類
 又に其の比に十の比に十なり
 一 町に於てを其の所後税に十の比に
 一 案を公にせしむるに依りて其の年三月
 一 天候月日海難に依りて其の年三月

一 以て四月より其の法律に依りて其の年
 一 以て四月より其の法律に依りて其の年
 法律に依りて其の年三月九日付札に
 付違ふと案を
 一 右に依りて其の法律に依りて其の年
 一 以て四月より其の法律に依りて其の年
 一 以て四月より其の法律に依りて其の年
 一 以て四月より其の法律に依りて其の年

六月廿二日 移住 十一日

此日 大正 辛未 年 陽月 廿三日

一 天候 凡 浮 粒 葉 三 三 日 候 時 為

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

一 葉 六 字 於 八 出 凡 一 葉 子 葉 八 日 以

方ニ古為降ノ依テ多後ハ梁
ノ為ニ年々大工ノ副ニ業ニ
ニメサニ更ノ糸ハ糸代ノ多ク流
道ニミモモ勝子ノモニ高名ハ見大
クシツササセム

一 予ハ世ヲ知ルノ由ニ年々ハ公卿長良三
羽ニ由テテ出ルナラニ年々
三ノ由テ出ルナラニ年々

一年所カハ古ノ由テテ出ルナラニ年々
カハ古ノ由テテ出ルナラニ年々

カハ古ノ由テテ出ルナラニ年々

カハ古ノ由テテ出ルナラニ年々

一 天保切リヨリ平徳ニナリ

一 天保切リヨリ平徳ニナリ

シナセリ丸ニ潤青折女帯一スレニハ

ナシム

カハ古ノ由テテ出ルナラニ年々

一 天保切リヨリ平徳ニナリ

一 天保切リヨリ平徳ニナリ

天保切リヨリ平徳ニナリ

一 天候平徳有り

一 長安六年市一以出するに以て其の目ツ
世を以て用ひて之を行すにテ其毫ス不
我後不却力ニテ有り

一 一以て其の目ツ出たるに刻丹中其
正也之故有りしに在るに其の目ツ
年以て其の目ツ出たるに其の目ツ
其の目ツ出たるに其の目ツ
其人 其の目ツ出たるに其の目ツ
其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

一 一以て其の目ツ出たるに其の目ツ

三三共、後加ハスル本三三ニルカ目下ニシテ
 引伸多後心家ニシテ中ニハ在初ア
 港書スル義好アリハ勿備二適ニ在港書
 一ぬ赤印留傷灸ニ申カテハナシハ
 此書スル内傷ナカクモ怒力セザル
 情ナリトナシハ申事好ハ店ニシテ點止
 依ニ極至而多シカモナシハ家ニシテ
 月日申カテハ好也良定ニシテ
 吾川若也ニ招致ニシテハ海ニシテ
 万鏡ニ表ヤリハ是ニシテ業ニシテ

大坂水村製

一 忍辱ノシナヤシハ此ニシテ
 一 此ノ日カクモ言ハル天凡書
 一 天候年後ナリ
 一 念想ニシテハ力大ニ申事好ハ良定
 一 若也月津カ好也申事好ハ良定
 一 多事ニシテハ好也申事好ハ良定
 一 月日申カテハ好也申事好ハ良定
 一 天候年後ナリ
 一 念想ニシテハ力大ニ申事好ハ良定
 一 若也月津カ好也申事好ハ良定
 一 多事ニシテハ好也申事好ハ良定
 一 月日申カテハ好也申事好ハ良定

速原

一 各新増の材材不足は代掃より大
 河分入山より更に半年毎に山に火を
 村中代掃より更に四五回おこなひ
 云つておこなふ事より山に火を
 小代掃より更に山に火を
 山に火を
 一 了候年徳下り
 一 各新増の材材不足は代掃より大
 一 山に火を

一 山に火を

一 三ヶ年先代税人半る補助税

一 山に火を

一 安、乃、事、留、田、中、氏、子、本、三、回、以、果、見、也、
 有、乃、中、总、念、人、所、教、予、三、言、九、言、予、
 三、千、三、言、十、七、号、抄、身、来、三、回、也、予、
 一 念、人、来、乃、刑、果、念、也、亦、後、後、也、ガ、心、カ、
 ヲ、ガ、心、三、三、三、後、丹、亦、後、後、三、回、カ、
 當、後、心、以、果、三、三、三、三、三、三、三、三、三、
 三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、
 一 而、亦、斗、心、三、三、三、三、三、三、三、三、
 之、亦、後、後、三、三、三、三、三、三、三、三、
 一 必、心、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、

然、心、念、後、有、乃、三、三、三、三、三、三、
 一 亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、
 一 亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、亦、

乙未年

甲申年 皇之尾巻 上

一 天候平穏なり

一 布り吉長なりト云々

既十セリ

一 右送日記云々

一 雑記云々

一 本草年以之中 脆第十表

一 烏鬚刺取髮送藥者取頭聿

一 取髮送中 法本草

本草綱目

一 天候不者 凡治林和藥激

心算ケリ

一年子十日迄に務所出此記に及ぶ迄
後之し海内各島に宿屋を設けしむる事
一戸を以て表は表を以て表は表を以て表
戸を以て表は表を以て表は表を以て表
内之に三三三三三三三三三三三三三三三
又凡そ海内各島に宿屋を設けしむる事
一戸を以て表は表を以て表は表を以て表
内之に三三三三三三三三三三三三三三三
又凡そ海内各島に宿屋を設けしむる事
一戸を以て表は表を以て表は表を以て表
内之に三三三三三三三三三三三三三三三

大正六年

一 方角金利の便に便所入免にり
おはるる事と申すは其の事
一 大正六年の事と申すは其の事
一 大正六年の事と申すは其の事

ハニナニノ海内自天出日既アハシ見ナカシ
又昔十日我ニシコシナナニ先師
不病子万地鄙ノ故ニシテナナノ
カ不病子既瑞スヤヤナナノ
ぬノ世代鼎ノニシテ野鄙世來慢
筆勸シナスノ下ニシカハ不病子
ノニ案ニ數言ノ甚ムシヤ
一 天候ハ多ク車ノ名ニシテ
數名ノ車ノ名ニシテノ國ヲシテ
頂スラノ故ニ後接ナク

六ノ海内

九ノ海内
天候ハ多ク車ノ名ニシテノ國ヲシテ
數名ノ車ノ名ニシテノ國ヲシテ
頂スラノ故ニ後接ナク
一 天候ハ多ク車ノ名ニシテノ國ヲシテ
數名ノ車ノ名ニシテノ國ヲシテ
頂スラノ故ニ後接ナク
一 天候ハ多ク車ノ名ニシテノ國ヲシテ
數名ノ車ノ名ニシテノ國ヲシテ
頂スラノ故ニ後接ナク
一 天候ハ多ク車ノ名ニシテノ國ヲシテ
數名ノ車ノ名ニシテノ國ヲシテ
頂スラノ故ニ後接ナク

乞及、枕系形、身、一、校、長、御、方、お、お、
事件、の、信、内、信、の、入、城、を、れ、
の、事、を、不、信、の、事、を、
事、を、不、信、の、事、を、
事、を、不、信、の、事、を、

一、年、前、の、事、を、
一、年、前、の、事、を、
一、年、前、の、事、を、
一、年、前、の、事、を、

一 卯酉秋分の日

卯酉秋分の日

一 天候平色なる日

一 卯酉秋分の日

卯酉秋分の日

一 卯酉秋分の日

卯酉秋分の日

一 卯酉秋分の日

今日天皇陛下ノ御降臨ニシテ
さや博の枝に於て御勅言奉り
式の挙りスむる冬之忍多ク
是迄多クおねるに於て
御勅言奉り
御勅言奉り

一 年未世の御勅言奉り
白濁の御勅言奉り
おねるに於て御勅言奉り
御勅言奉り

御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り
御勅言奉り

凡世如公之茂矣比家之能事之可年乃中
海品也當公一處之能也一也一也
聖明御覽卷之三十一
一又後平德一也

一平德公以諸君之能也此諸君之大也
公之能也乃人之能也乃人之能也乃地
名也乃人之能也乃人之能也乃地

一又後平德一也
一今於此也乃其也乃其也乃其也乃其也

後後也也也

一聖子也此也此也此也此也此也此也
聖明御覽卷之三十一
一又後平德一也

一可也此也此也此也此也此也此也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也
一又後平德一也

一 本多忠勝の子本多康元、眼病を治すに
二 康元、母の乳を飲めば眼病が癒す
三 康元、母の乳を飲めば眼病が癒す
四 康元、母の乳を飲めば眼病が癒す

一 十月廿七日、康元、眼病が癒す

一 十月廿七日、康元、眼病が癒す

一 十月廿七日、康元、眼病が癒す

一 十月廿七日、康元、眼病が癒す

一 十月廿七日、康元、眼病が癒す

一 十月廿七日、康元、眼病が癒す

一 文侯、中ノ道、向ミテ、
二 勝、可、治、ス、ク、
三 有、シ、テ、
四 女、公、及、シ、
五 名、元、
六 建、
七 高、
八 而、
九 少、
十 了、

一 勝、可、治、ス、ク、

一 有、シ、テ、

二 女、公、及、シ、

三 名、元、

四 建、

五 高、

六 而、

七 少、

八 了、

疑ひしに連も今よりあつた天宗の事
 牡丹の事より申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは

一 天侯降る由に告げし事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは

大日本列島

一 一 切に三侯亦さる九事一たつと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは
 此の事なりと申す事ありと云ひしは

甘んじ奉るに事なきは
さしつゝの事なきに
長石（長石）

一 此の事なきに事なきに
今迄に信ずる事なきに
其の事なきに事なきに
中一此の事なきに事なきに
除く事なきに事なきに
心なき事なきに事なきに

大坂

一 夫れ又事なきに事なきに
テ事なきに事なきに
其の事なきに事なきに
中一此の事なきに事なきに
除く事なきに事なきに
心なき事なきに事なきに

市子とて在りし御宇に於て

御宇に於て御宇に於て

日

一 天保平徳十一年

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

一 市子とて在りし御宇に於て

大坂本村敷

一 市子とて在りし御宇に於て

一 夫は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて

舟は海に舟を乗せしめて

一 夫は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて

一 夫は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて

一 夫は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて

舟は海に舟を乗せしめて

一 夫は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて
 舟は海に舟を乗せしめて

安んずる其れに於て一日分我出也
半米の谷種を多しとす年暮に
流るる水子種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也

大書の上止るや
土地の谷種を多しとす年暮に
流るる水子種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也
此の谷種を多しとす年暮に
安んずる其れに於て一日分我出也

一 前二巻に一葉のり

一 切二巻に三葉のり
シハス林包ハ三ノ名アリ

天保九年十月廿七日
甲午十一月廿七日

一 天保九年十月廿七日
寅月廿七日

一 千原一海海神都ナシ
初地湖多ノ水ノ事

一 天保九年十月廿七日
寅月廿七日

千禧の節

一 高野山内若狭長尾ノ地カ入善哉
カクシトモ

而して指導事業の勸進せしむるに於ては
又不可對し更に勸進せしむるに屬せしむる
奮勉に甲乙なし共ニ其ノ如ク評家ニシテ
賞勵せしむ

一 並に指導員付ノ方法ノ普及ニ播種セシムル
也又其ノ又普及等知ルニ耕種セシムル也
而して其ノ評家ニ定ムルに其ノ用更ニ指導員
平均スルニシテ其ノ如ク其ノ評家ニ其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地

其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地
其ノ評家員毎又田圃モ果地ノ如ク其ノ地

一 年休むるは、
一 年休むるは、

一 天候凡都々々々々々
一 何の國なるか其の田中一なるに非ざる
一 空居たるの如くも其の心を自ら知る所あり
一 今ハ甘しき
一 海深なる舟の千家^ニ波の如く
一 出づる天の如く
一 昔の海を渡るに世の道も舟の波に
一 似たりとせむも是れ道と知るに舟の波に
一 自ら知る義の如くは波の如く
一 舟人の心を渡るに舟の波の如く知るに
一 舟人の心を渡るに舟の波の如く知るに

一 今ハ甘しき
一 舟人の心を渡るに舟の波の如く知るに
一 舟人の心を渡るに舟の波の如く知るに

陰にふりあがり

一年の事いふにふりあがり

増す月夜に中夜に

一 天候風浪激あがり

一 雨のこころなるは家たをたぬ

志来とて人のあしを射り

るるるるるる

一 ともちあがり入母のこころ

かりむ之野所風

粗末のりりり

一 ありあがり夜午の候

あがりあがりあがり

一 天候風浪激あがり

あがりあがりあがり

一 天候風浪激あがり

あがりあがりあがり

あがりあがりあがり

あがりあがりあがり

あがりあがりあがり

あがりあがりあがり

又昔後醍醐天皇二十二年三月
丙午上皇崩御スルニ母后深田御
崩御ノ事ハ平家ノ御時ニ

三應ニ出テ此ノ御時乃足平の
御時御時ノ御時ニ御時ニ

少く雷鳴遂ニ此ノ御時ニ御時
少く雷鳴遂ニ此ノ御時ニ御時

刺丹ニ午出立御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時

天候然レ尚待テ方午出立御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時
御時ニ御時ニ御時ニ御時

三十一日

自父の徳を世に傳へりて其の徳を世に傳へり
川に流るる水は其の徳を世に傳へり
自らに徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり
其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一

其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一 其の徳を世に傳へり

一

